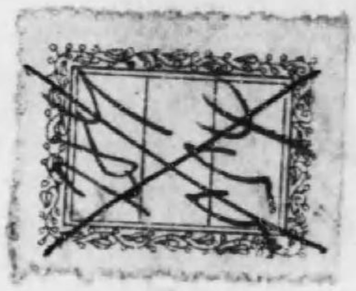
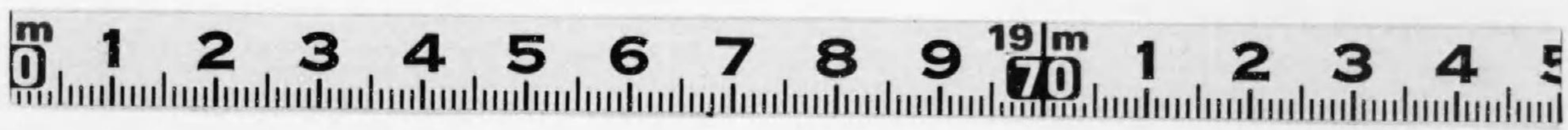
特108
249



一切経音義



第

特108
349

▽健康を保ち、世を益するは吾人の義務なり。

高貴御用
陸軍御用
海軍御用

専賣特許 第三九二六三號
第三九四三二號

河喜多式
ヴイオラー
紫光線電
波治療器
大

平和博覽會受賞 内外品中唯た一點

▽吾人に共義務を全ふせしむる物は、ヴイオラーなり。

11. 11. 25
内交

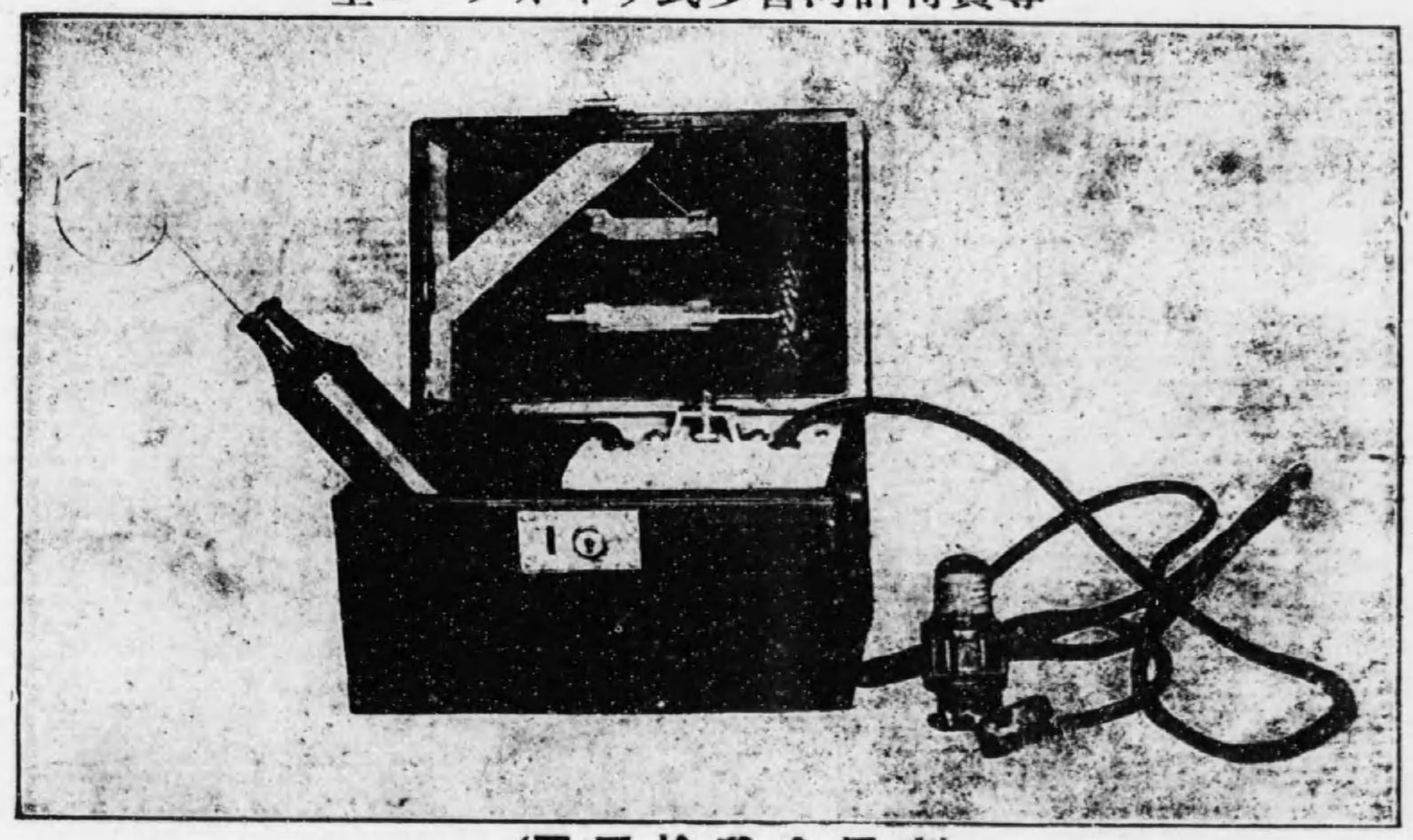
河喜多研究所

本所は啻だ一時的の、紫光線治療器のみの研究所にあらず。所長河喜多能直氏は、電磁氣に關する、世界的有數の研究家にして、其献身的なる事は、過去十數年の發明品に於て、既に特許權を得し物のみにても、百數十件あるを見て人呼んで、東洋のエヂソンと稱する所以である。

發明品の主なる物は、電氣に依る海深測定裝置。同自働記錄裝置。飛行機。汽車。汽船其他の機械を電波に依て操縱する裝置。簡便なる空中窒素固定裝置。氣流測定器。油田測定器。電解用白金電極板。アルカリ電解。無線電信。無線電話。輕便なる無線電鈴。自働警報器。電送寫眞。X光線。同光量計。同スイッチ。各種デアテルミー等の外、其數實に數百の多きに達するのである。

就中從來の、X光線、デアテルミー、紫光線裝置等には、完全なる冷灼裝置なきを以て、自ら優秀を誇る、舶來品に於ても、故障を生じ易く、使用に堪えざる、舶來品に於ても、故障を生じ易く、使用に堪えざるもの多きを遺憾とし、本所獨特の裝置を發明し、特許權を得、先づ帝國大學病院の賞讃を得て採擇となり、次で順天堂病院其他、著名病院は外國製品を廢し、本所製品の採用せられ居る點は、天才的なる所長を首め、技工手に到る迄、利慾を度外視し、專心是れ研究に沒食せる、責任觀念の結晶なる事を、廣く內外に聲明して、敢て憚からぬ所である。

專賣特許河喜多式ヴィラオ—B型



(定價金參拾五圓)

ヴイオラーB型

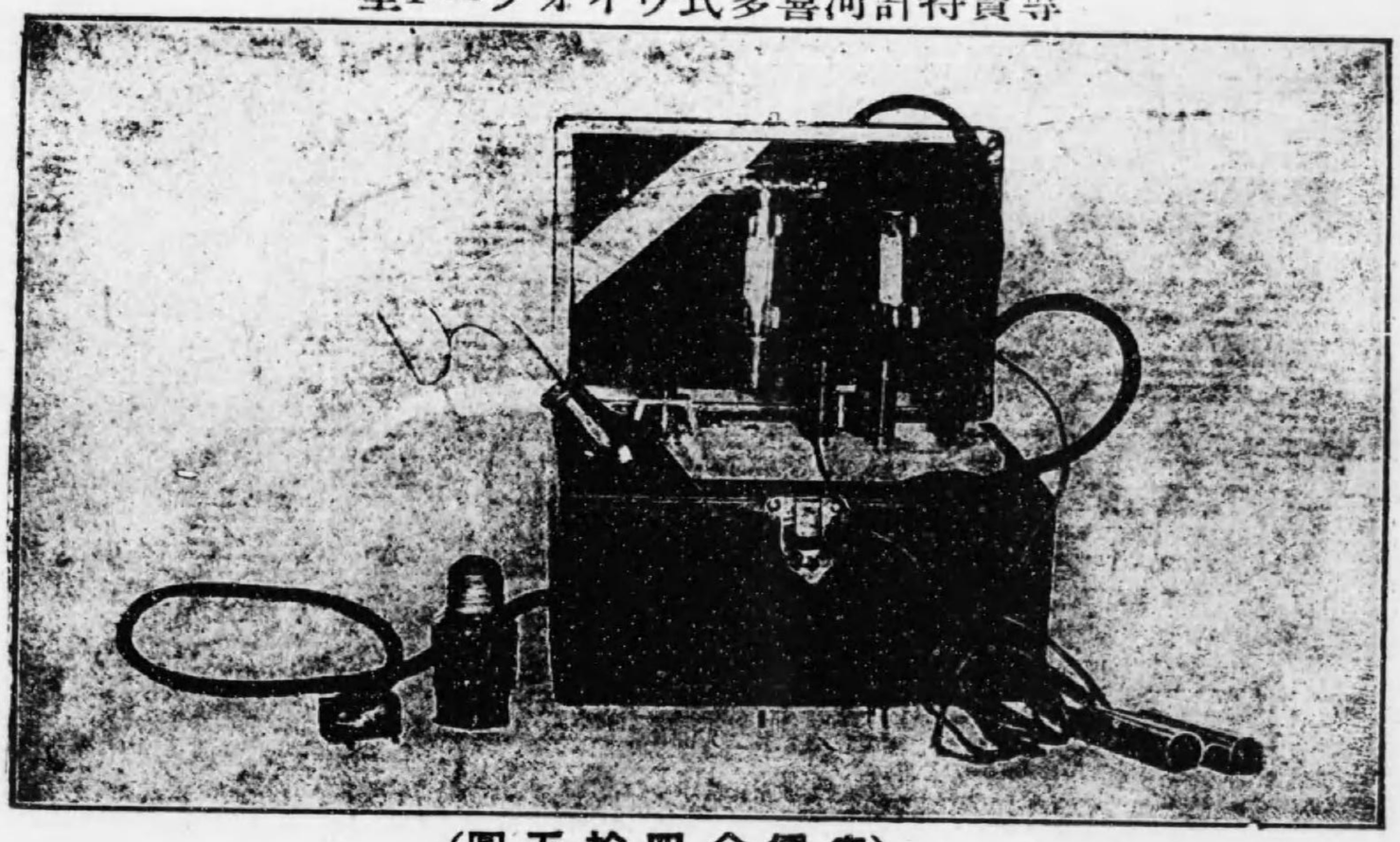
少しも危險性なく、永久の使用に堪ゆ！

河喜多式ヴイオラーが、他の紫光線器と稱するものに比較して、如何に優良なるかは、本文を終りまで御讀下されば、詳しく御解りになりますが、大體を申し上げますれば、紫光線を發する理由は、電燈線より取つた電流が、此の器械の中を通れば、電力は數百倍に增しますが、人體には却つて危險性の無い、高周波と云ふものに變り、此れが人體に附ける處の、硝子製の眞空管を通る時に、紫の光線を發するのであります。

此の器械は、無線電信所の、高壓高周電波發生裝置と、大小こそ異なれ、同一の奥深き學理に依つて造られたるもので、粗製濫造せる模造品は、完全な光線が出なかつたり、電熱の爲めに燒け切れて故障を生じ、治療の目的を達することが出來ぬのであります。

如何に價格が安くとも、其目的を達し得ない時の、失望と、不經濟とを御考へ下さい、河喜多式ヴイオラーは、かゝる故障を絶對無くする爲めに、特別な裝置を用ひ、專賣特許を得てあります。口や文章上ばかりでなく、眞に永久使用に堪え得る點は、平和博覽會に於て、內外數十點の出品中、ヴイオラーのみが推奬されて、受賞したのは、最も確實なる、大保證であります。

專賣特許河喜多式ヴイオラーF型



（定價金四拾五圓）

許さぬ所であります。

一な割合で、数十萬圓を費やし、高周波を發生して居る點は、他に模倣を流で、B型もT型も、僅か五燭光の電燈に要する丈の電

室内空氣は高壓に消毒せられ、一位の、極めて強き殺菌性が、

放電によつて化成されたもの、極めて微量で、

ふものを發します。此のオゾンは、空氣中の酸素が、

B型もT型も共に、紫の光線と同時に、オゾンを云

重寶であると信じます。

故に、一般家庭には勿論、醫師方の往診用として、最も

此のT型を發明して、數多の感傳電氣を刺戟し、

一種の器械を以て、ある力の凝りを解く、

筋肉の慢性の効力が、

筋肉をマッサージする力が、

病變部を治療する、

紫光線電波は、人體の組織成分に、柔かき元氣力を興

紫光線電波と、感傳電氣治療の併用器！

ヴイオラーT型

便秘、痛みなどには、恰も拔群の効力を發する時の如く、

却つて麻痺する時の如く、

病氣や、慢性の熱なる爲に、

ヴイオラーの特長

を加ふる力は、

此の慢性の凝りを解く、

筋肉の病氣か、慢性の熱なる爲に、

紫光線電波は、人體の組織成分に、柔かき元氣力を興へ、紫

電波治療靈器 ヴイオラー

目次

上編　紫光線電波の研究

一、健康と病氣……一
二、病氣と療法……三
三、活力と電磁氣……四
四、生物用電波……七
五、ヴイオラーの特長……八

下編　ヴイオラーの應用

一、唯一の家庭醫師……一一
二、健康時の日常使用……一三
三、ヴイオラーの使用法……一七
四、眞空導子とは如何なる物か……二〇
五、使用上の心得……二三
六、健康時及疾病時の應用表……二四

電波治療靈器　ヴイオラー

上編　紫光線電波の研究

一、健康と病氣

美の女神ヴイナス

吾等人類のみならず、總て動物の生存する要件は、

一、食物の營養分により、身體成分を造ること。

二、呼吸により、體内瓦斯の交換を營むこと。

三、排泄機により、老癈物を體外に出すこと。

尙ほ、詳しく説明すれば、

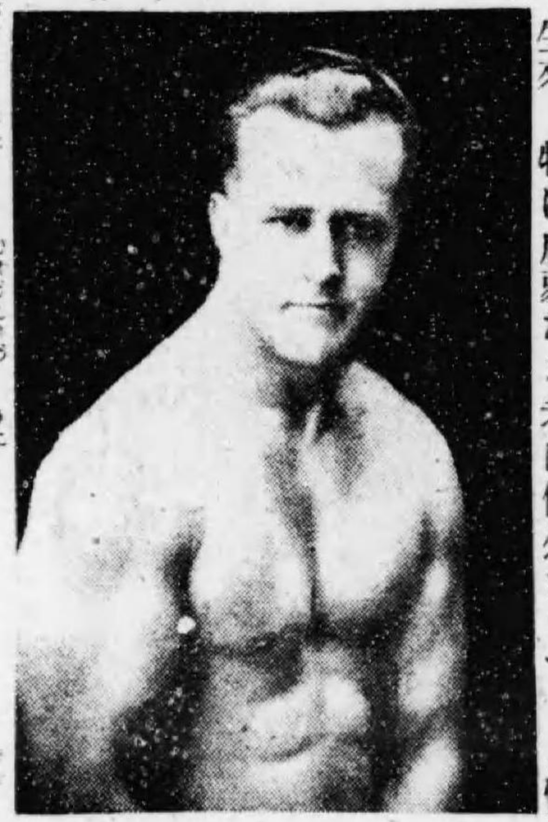
身體各部を組織する、成分中に含まれたる、エネルギーは、血液中の酸素と化合して、溫を發して體溫となり。又諸種の力となりて、生物の動作となる。更に食物の營養分によつて、造られたる新成分は、舊成分の位置に入れ代り、絶えずエネルギーを、補ふて居るのである。

化合の際に生じたる、體内に有害の炭酸瓦斯は、血液に含まれて、心臟を經て肺に還り、肺の呼吸作用により、空氣中の酸素と交換せられ、茲に新鮮の酸素を含みたる血液は、再び心臟より身體各部に送り出されて、組織成分とこの化合作用を、繰り返すものである。

化合を終りたる、舊成分の老癈物は、最早體内に不要のみならず、蓄積する時は、有害なる作用を起すものなるにより、腎臟及皮膚等の排泄機に由り、尿又は汗となして、成る可く速かに、體外に排出しなくてはならぬのである。

此の三作用を生理學上、物質交換作用又は、新陳代謝作用と謂ひ、完全に行はる、時は、之れを健康と云ひ。例へ一作用の故障にても、忽ち全身の機能に影響し、部位及び程度により、種々の症候を呈するを、之れを病氣と云ふのである。

二、病氣と療法



生來、特に虚弱なる者は例外として、人體には生育に必要なる程度に、總てを調節し、活動を繼續せしむる活力と稱する機能があり、此の力は、腦の作用と、身體各部の作用とが、統一的に一致して、生ずる微妙な力で、後に說く一種の、電磁氣作用と見做すべきものである。

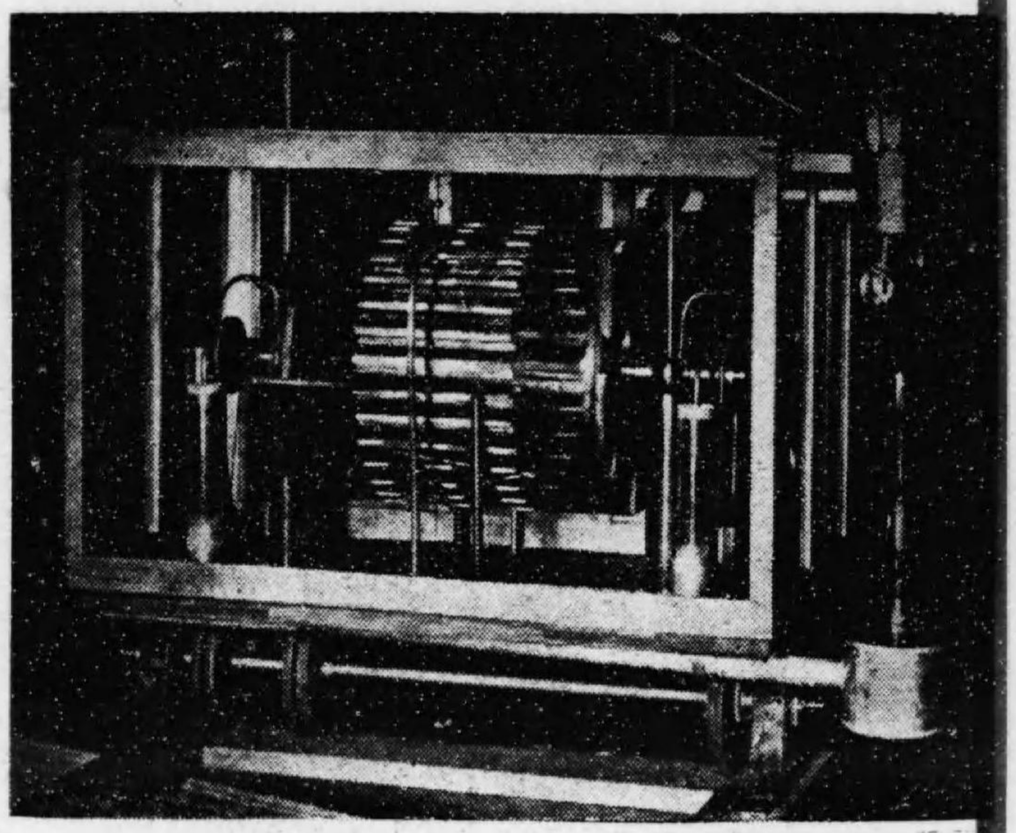
故に、活力發生の障害となるべき原因は、新陳代謝の調節を亂し、病症を起すものである。例へば過度の心勞の爲め、腦に疲れを生じ、從つて其作用鈍る時は、引いて胃弱を起し、營養物の攝取減少し、貧血、衰弱を來たし、精神、消化、兩方面のみならず、全身に惡影響を及ぼ

すに至るもので、之れを神經性胃弱と稱し、たゞ一つの心勞と云ふ原因が、活力の發生を妨げたるにより、起りたるものである。

活力の發生を妨ぐる病原を、根本的に除き得れば、此れこそ眞の治療法であるが、現今二三の物以外に、此の根本的療法なく、己むを得ず藥物、營養物、天然物等を利用して病苦を和らげ、活力の自然恢復を、助くる方法を取りつゝあるのである、若し活力と同樣の力を、人工的に發生せしめ、隨時不足せる活力を補ひ、病原を減退しつゝ、本來の活力を急速に恢復せしむる療法あらば、此れこそ眞の福音と謂ふ可きである。

三、活力と電磁氣

紀元四世紀の頃、羅馬にセント、エルモと云ふ牧師があり、或る冬地中海を渡る時、ふと船上に起る不思議な光を見て、神より下さる、瑞兆であると思つた。此の光は風雪の夜に多く、帆柱の尖端、寺院の尖塔などに起る、一種の刷毛狀放電で微妙なる音と、酸素より化成せる、オゾンを發生し、消毒、清淨の意味に於ける、神秘的なものであつた。



農作物電化裝置（レムストレーム博士設計使用）

又地球の兩極には、極光と云ふものが顯はれる、天の一方又は滿天が、絶えず動搖する、美しき色彩の、柔かき光りの縞に包まれて、神秘と崇高の感に堪えざらしむるものがある。此の極光の出現は、太陽より地球に向つて來る、陰性の電子が、兩極に近いた頃、空氣の上層に含まれたる、陽性の電子と空中放電をなす、現象である。

地球の兩極は、常に太陽の光線極めて少なく、植物は殆んど生育せざる如く思はる、

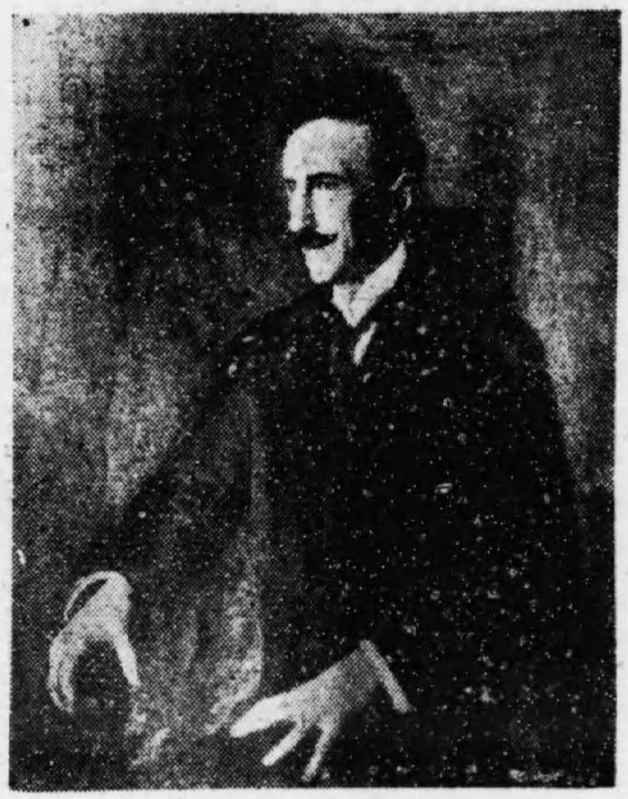
（上は電氣効果の長生を比較せよ）

も、レムストレーム博士の實驗によれば、溫帶に於けるよりも、生育却つて早く、且つ色彩美しく、香氣に富み、殊に針葉樹の發育著しきは、空中帶電量、溫帶に比し遙かに多く、且地球磁石の關係により、太陽より發する陰性電子は、此の處に集まり、極光の出現すること多きが爲めである。

レムストレーム博士は、此の理を應用して、溫帶に於て特殊の裝置により、空中帶電量を增したるに、農作物の生育早く、一ケ月に約四割の增收を見たのである。彼の無線電信所附近の作物の增收及び、稻の生育季に多く顯はるゝ、空中放電即ち電が、古來より豐作に關係ありて、稻の妻と呼ばるゝを見ても、如何に動植物の

活力と、電磁氣作用とが、密接の關係あるかを、知るに難くないのである。

四、生物用電波



ニコラテスラ

かと云ふに、恰も生物活力の作用に等しき、電磁氣の細分子にして、組織細動植物と電磁氣の關係は、前章に述べたる如く、密接なるものなるも、落雷の如き、强烈なる放電は、生物を殺し。又此れより遙かに弱き、電燈線の電流及び、電池の電流等にても、組織細胞に强き刺戟を與へ、分解を起さしめ、却て有害の作用をなすものである。

然らば、生物に適當なる電氣は、如何なるものを求むるか

胞に柔かき刺戟を與へ、此を亢奮せしむる如きものを、望まねばならぬ、現在之れに適せるものは、ニコラテスラ氏の發明せる、高壓高周電波のみである。

此の電波は、恰も或る時は洪水となりて、人畜、田畑を押し流し、又或る時は怒濤となりて、大艦をも呑み盡す、惡魔の如く偉大なる力を有する、大河、大洋の水も、絶えず蒸發すれば、時には絹糸の如き春雨と姿を代へ、人畜草木を養ふ如く、強烈なる電流を、或る裝置によりて、細分子の電波としたるものである。

大科學者アレニウス教授は、小學校教室内に此の電波を通じ、兒童の精神上及び體格上に、著しき進歩發育を、認めたる事を證明して居る。此電波を最も簡單に、到る處にて即座に發生せしめて、豫防、治療、又は肉體の改造に應用せしむる爲めに、造られたるは、此の河喜多式ヴイオラー、紫光線電波治療器である。

五、ヴイオラーの特長

光線は一種の電波で、其電波の長短が、各色の別を生ずる事は、久しき以

前より知られて居たのである。其波動の長くして緩慢なるものが、吾等の呼ぶ赤色であり、波動の短かく急速なるものが、吾等の呼ぶ紫色である。其中間に、橙黄、黄、緑、藍、紺、の各色があることは、虹により其順序及色の幅を見れば、明かである。

此の他、赤より一層長く緩かなる溫線あり、紫より一層短かく、急速なるものに、紫外線及X光線がある。此の波動の長短、緩急、即ち各色の別は、電波の大小、強弱の標準となるもので、X光線は、用途に於ては作用劇しきに過ぎ、又藍色光線以下は、作用餘りに弱きに過ぎ、唯だ紫光線及紫外線に相當する電波が、組織細胞の亢奮的刺戟に適するのである。

此の理によりて、近來紫光線治療器なるもの、數多濫造せられつゝあるも、電波弱く漸く赤色より、藍色の間の光線を發するに止まるもの、或は一時紫色及紫外光線を發するも、同時に發する熱、又は高周波の周期と、大さとを加減せられざる爲め、故障頻發し、治療器として使用すること能はざるは、頗る遺憾の極である。

河喜多式ヴイオラーは、此の缺點を除き、且つ電波の應用範圍を廣からし

めん爲め、嘗てニコラテスラ氏電波發生裝置に無き、特種の點を發明し、吾が政府より發明權の保護を得て、此れを使用せる點は、廣く内外に向つて、誇る處の事實となつて顯はれたのである。

先般東京府主催の平和博覽會に於て、理學療法の大家、帝國大學の眞鍋教授、外四大家の審査の結果、高遠なる學理に適せる、裝置として推奬せられ、受賞の光榮を得たるは、數多の内外國製品中、唯だヴイオラーのみなりしと云ふ事實は、眞價ある治療器たる事を、最も雄辯に、説明せるものである。

下編　ヴイオラーの應用

一、唯一の家庭醫師

上編にて研究したる如く、人體の病氣は、體内組織に、絶えず亢奮的刺戟を與ふる、活力の減少又は欠乏により て、新陳代謝の調節亂るゝによりて起り、之れを治療するには、活力の作用に等しき、紫光線電波を以て、減少又は欠乏せる活力に代へ、新陳代謝の調節を促しつゝ、本來の活力の恢復を一時も早からしむ可き、理想的の靈器は、河喜多式ヴイオラーなることは明かになつたのである。

家族の健康と和樂は、幸福の極みなりと、ベーコンも云ひしが如く、此の世の中に健康に比すべき、富貴は更に無いのである。然し一面には、人生は病の容れ物で、其起る時は、時間と場所との容赦がなく、進んで死と云ふ問題程、人心を恐畏せしむるものは無いのである。此の意味に於て、昔より醫は仁術なりと、呼ばれて來たのであるが、現代に於ては、財布の輕重は病の

經過を左右すと歎かしむる有樣となつた。此の時家庭内に一個のヴイオラーあれば、精神、經濟、兩方面に、些かの不安なく、實に仁愛の道に富める良醫師を、衛生顧問として持つ、最大の誇りを有するのである。

二、健康時の日常使用

千の治療より、一つの豫防。と云ふ言葉は、實に衛生上の金言である。健康と疾病とは、格段の差がある如く思はるゝも、實際には背中合せをなして居り、或る程度迄は、專門家も區別に難いのであるが、左記の塲合には、ヴイオラーは、實に病の芽を摘み棄てる唯一の靈器となるのである。

全身應用

一、不眠の時

社會が複雜となるに從つて生存上の競爭を劇しく、精神も腦まつすこと多くなり、夜中にても、容易に眠りに就けぬ事がある。睡眠は腦組織の、疲勞を恢復する、自然の良法で、不眠の害は、絶食の害より甚だしく、如何なる美人にても、一夜の不眠は、顏色痩れ、皮膚毛髮は光澤を失ひて、昨日に變る淋れたる姿を鏡の前にて、實見したる人も、蓋し少なくないので有らふ。男女共に此の不眠が進めば、最早健康體でなく、神經衰弱の名の下に、色々な症狀が起る事は、最も恐る可きである。

頭部應用

かゝる不眠の塲合には、五分間乃至十分間の、ヴイオラーの應用にて、夢をも見ぬ、眞の眠りに就き、眞の美身、美顏術を行ひ、毛髮は艶を增し、健康に誇る事が、出來るのである。

頰部應用

二、沈欝、不愉快の時

性質沈欝なる人も、或る事情の爲め、沈欝不愉快なる人も、共に生理上故障を生じ易く、諸種の病氣の誘因をなすものである。此際

ヴイオラーを、臨時的に、五分間乃至十分間づゝ、使用せば、大いに活氣を増し、今後世界的大舞臺に、活躍する、英氣を貯ふる事が出來るのである。

三、事務繁忙の時　精神及肉體の使用に伴ひ、エネルギーの消耗甚だしく、一歩進めば病氣を引き起し易きものである。かゝる時に、ヴイオラーを、就寝前十分間位の、全身的應用にて、疲れたる活力を補ひ、新陳代謝を進め、翌朝は潑溂たる元氣にて、爽快に、事務に望むことが出來るのである。

咽喉部應用

四、筋肉を劇しく使ひたる時　運動、遠足、又は勞務に服したる時は、新陳代謝非常に劇しかりし結果、新成分の補充、瓦斯交換、老癈物の排出、稍やもすれば遲れ勝ちとなるにより、疲勞を感ずるものである。かゝる場合には、古より入浴による、温和的刺戟により、血行を盛んにし、新陳代謝を進めたるが如く、ヴイオラーの五分乃至十分の使用により、活力を補ひ、新陳代謝を増し、疲勞を忘れしむるのである。

五、酒、烟草の惡醉の時　アルコール、又はニコチンが、腦の一部に作用する爲めに、非常に不快に感ずるものである。此の時、ヴイオラーを三分乃至五分間、顳顬部の應用によりて、拭ふが如く爽快となるものである。

六、多飲、大食したる時　鯨飲、暴食は不攝生の極である故、愼む可きであるが、營養を充分に取り、英氣を養ふ爲め、又は祝意を表する場合は、消化力の許す限り、敢て辭す可からざる事がある。此場合には

顳部應用

ヴイオラーを、胃腸に約十分間應用せば、胃腸の機能を進め、消化液の分泌を促し、異常醱酵、腹痛、下痢等の憂ひなきものである。

七、視力を使ひ又は高聲を發したる時　讀書、諸技工、裁縫、等殊に視力を使ひたる時、又は高聲を發して、聲帶を疲らしたる時は、眼は顳顬部に、聲帶は咽喉部に各約五分間位、ヴイオラーの應用によりて、恢復するものである。

八、皮膚に異常のありたる時　日に燒け、にきび、そばかす、ふき

で物の出でたる時、マッサッジクリームを塗り、其上をヴイオラーにて、五分間乃至十分間、摩擦をすれば、皮膚の新陳代謝を増し、舊組織は、角質となりて剝脱すること早く、新生したる、美しく柔かき皮膚の、持主となる事を得るのである。

脊部應用

九、脱毛及びふけ多き時

毛根の皮膚よりは絶えず分泌物を出す故、稍やもすれば、脂垢となりて停滯し易く、酸化して毛根を害し、皮膚の肌を荒らげ、ふけを多く生ぜしむるものである。此の際ヴイオラーに、頭部用の導子を用ひて、約五分間位づゝ、毎日使用せば血行を増し、分泌を適度にして、脱毛ふけを治するものである。

十、高齢に達したる時

人の老衰の原因は消化器内に於ける、食物の異常醗酵産物の、自體中毒と、或る特種の力ある、内分泌物の、分泌量の減少とに因るものであるゝ故にヴイオラーを、毎日五分間乃至十分間づゝ、

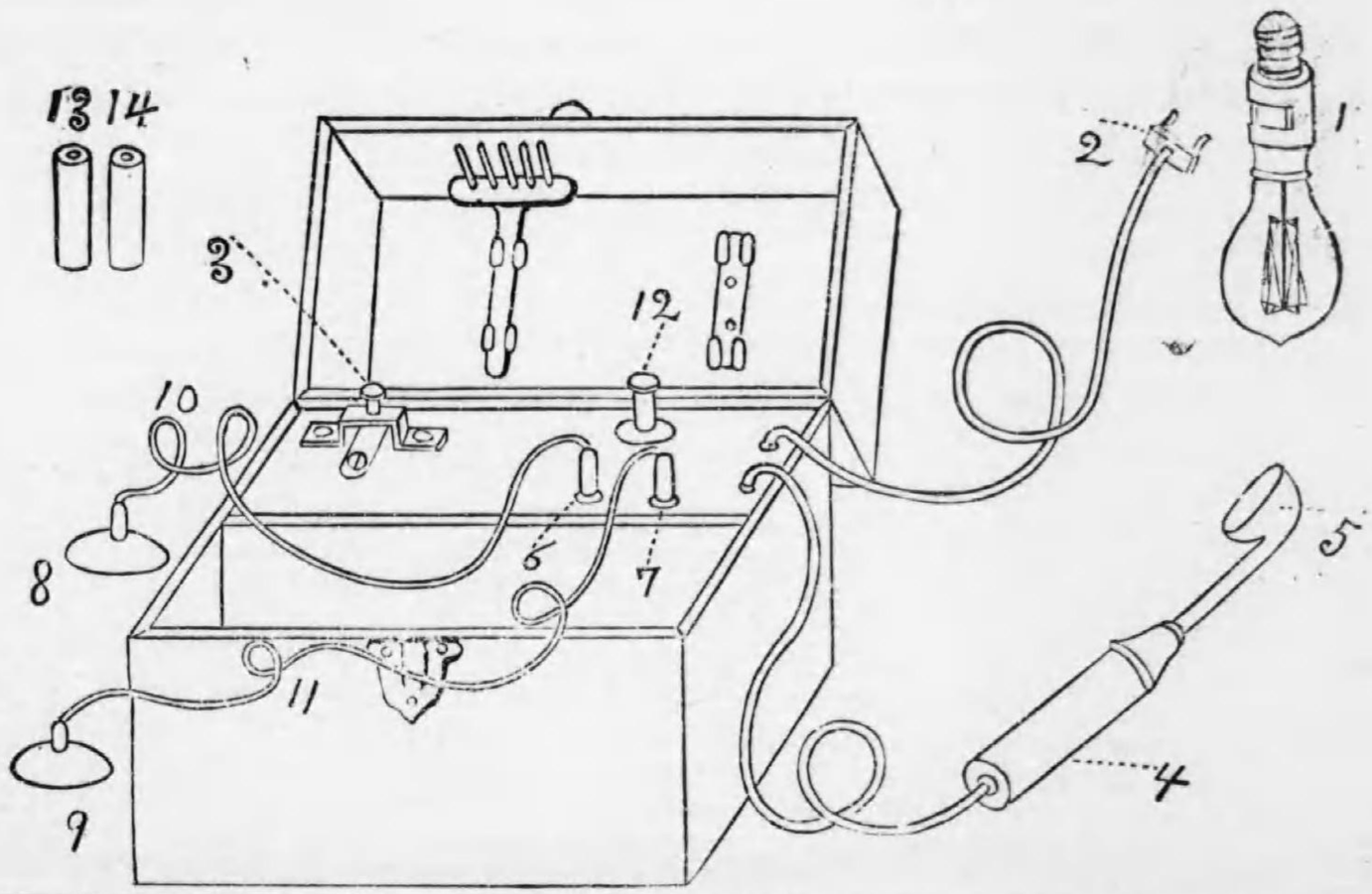
膝部應用

腹部及全身の應用にて、食物の異常醗酵を制止し、特種力の内分泌を盛んならしめ、老いて尚ほ、壯者を凌ぐの感あらしむるのである。

以上をヴイオラーの、日常使用十徳と稱するのである。尚詳しき應用の方法及其部位は、後の應用表を熟讀せられたし。

三、ヴイオラー使用法

一、B型　此の挿繪はF型であるが、紫光線の出る所までは、使用法は同一である。(1)なるソケットを、電燈の普通のソケットと、球との間に取り付けて後、(2)なるプラグを挿し入れ(3)なる斷續器の捻子を、(の)の字



導子を（4）に挿し込めば、美しき紫の光を發するのである。紫の光の強弱は、（3）の捻子によつて、加減が出來得るのである。

振動を初め、極く靜かに、捻子の先端に少しづゝ、青色の小なる火花が飛び初め、次で（5）の眞空管の焼く事である。一回使用を終りたる時は、（2）を（1）より離し、（3）は（の）の字の反對に廻し返し置くことを、保存上注意すべきである。

金物に密着する時は、振動音はピタリと止み、紫の光線も消ゆるもので、此の時多大の電流は、矢張り内部に流通し、大なる熱の爲めに、器械を

一、「F型」　紫の光線を出す所迄は、B型と同一で、次に感電氣を、使用する時は、（6）（7）なる穴に、（10）（11）なるコードを連結し、其の端に、（8）（9）なる金屬製の圓板を、能く水に濕して取り付け、患部に密着し、（12）なる加減棒を、次第に上に引き上ぐる時は、感電は強くなるのである。然し、身長高く引き上ぐる時は、反つて弱くなる故、適度の處に加減して使用し、全餘一樣に感電せしむる時には、（8）（9）の代りに（13）（14）を取り換へ、兩手

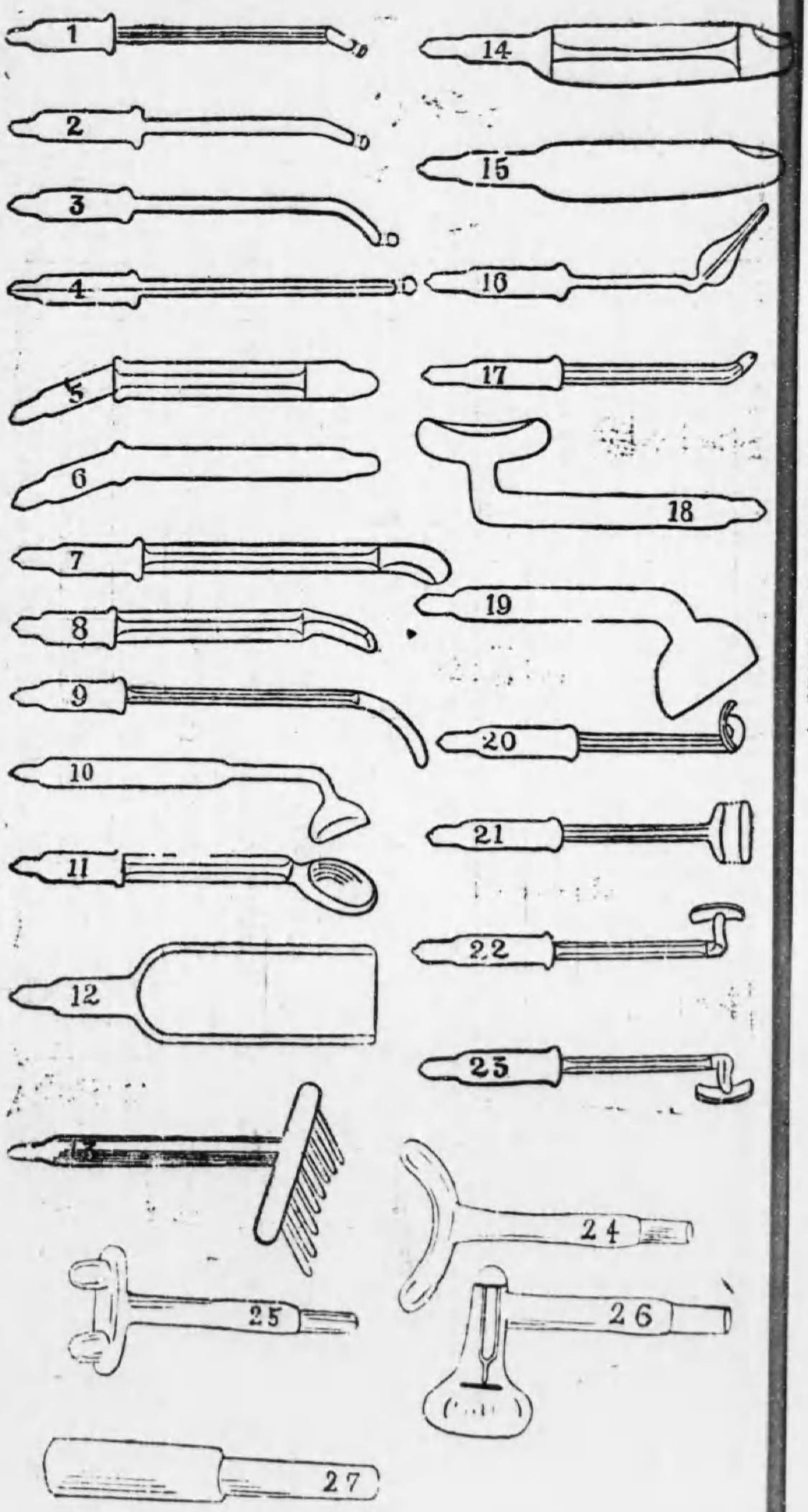
に振り分けて持つのである。

四、眞空導子とは如何なるものか

眞空導子とは、前圖の(5)に相當する、硝子製の眞空管で、高壓高周電波を、此の眞空中に於て、放電せしむる爲めに、造つたものである、普通電流には、硝子は不良導體であるが、高周波は一秒間、七萬六千里の速度にて、八方に散亂する、電氣の細分子である故、硝子は容易に通過し、管に手又は其他の物を、近付くる時は、刷毛狀の放電をするものである。

導子には身體に應用する部位に依つて、左圖の通り種々の形が有る、ヴイオラーB型にもF型にも普通の場合(19)の皮膚平面用と、(13)の頭部用とが添付してある、他は注文に從つて送ることゝなつて居るのである。

紫光線用眞空導子



眞空導子定價表

番號	種類	價定	番號	價類	定種
1	鼻用	円 1.80	14	窒用	円 2.50
2	同	1.20	15	同	1.50
3	尿道用 大小御指定ニ依リ製作可仕候	1.20	16	耳用	1.50
4	同	1.20	17	燒灼用	2.50
5	腸直用	1.30	18	乳房用	2.50
6	同〃	1.80	19	皮膚用	2.50
7	攝護腺用	1.30	20	齒科用	2.50
8	舌用 絶縁シタルモノ	1.50	21	同	2.50
9	扁桃腺用 絶縁シタルモノ	1.80	22	同	2.50
10	眼球用	1.50	23	同	2.50
11	舌用 絶縁シタルモノ	2.00	24	咽喉用	1.50
〃	同〃 絶縁シタルモノ	1.20	25	脊髓用	2.50
12	陰莖用	1.50	26	コンデンサー導子	4.50
13	頭部用	1.50	27	金屬導子	1.00

五、使用上の心得

一、火花は危險なし　ヴィオラーを使用する際、時によりて火花を發するこゝあるも、決して驚き恐るゝに足らぬのである。何等の不快も感ぜず、又何等の害あるものでない。只だ少しピリッと感ずるだけのものである。此の火花に驚いて、眞空導子を、手より取落しなどすれば、却つて負傷することあるはよく、心得置かねばならぬ事である。

二、電流の强弱　電流の强弱を計るには、眞空導子より出づる、紫光線の方向に、少し空間を隔てゝ、手を置く時は導子より、手に向ひて、火花を發す、此の火花の長さの長短は、電流の强弱に相當するもので、强き電流にては、眞の紫の光線を出し、火花も長く飛ぶものである。

三、全身的應用　全身に溫和的に心地よく應用するには、眞空導子を手に握れば、全身一樣に電波が通ずるのである、此の療法は醫師間に持て囃されて居る、デアルミーと同樣で、鎭靜作用及精力恢復作用等著しきものである。

四、局處的應用　局處の患部に柔かく、快感を求むるには、眞空導子を密着すべきである、痲痺及神經痛などにて、少し強く刺劇せんとする必要ある時は、導子を患部より少し離し、短かき火花を飛ばすのである。疣、黑子小痣、等を燒烙する時は、強き電流にて、長き火花を其部に飛ばし、少しの疼痛を忍ばねばならぬのである。

五、間接應用　幼兒又は老人及衰弱せる患者にて、眞空導子を、意の如く應用するに難き時は、他の一人が施術者となり、導子を片手に握り、片手を患者の患部に密接して、柔かき刺戟を與へ、又は少し離して火花を飛ばし強き刺戟を與ふるものである。此の應用は泣き悶ゆる、小兒の齒痛等には殊に妙である。

六、健康及疾病時の應用表

適應症	應用部及方法	電流強弱	導子番號	時間	應用時	回數
不眠	後頭。頸。額。眉。顳顬の部へ接觸。	並	(19)	一〇—一五分	就眠時	一回
沈欝	前に同じ。又は導子を握りて全身應用。	並	(19)	一〇—一五分	臨時	一—二回
疲勞	前に同じ。	並	(19)	一〇—一五分	就眠時	一回
過食	腹部に、上腹より下腹に、撫で下す樣にして接觸移動すべし。	並	(19)	一〇—一五分	臨時	一—二回
惡酔	額。眉。顳顬の部に接觸。	並	(19)	五分	臨時	一—二回
眼の疲れ	眼の横。又は眼を閉ぢたる上に接觸。	並	(19)	五分	臨時	一—二回
聲帶の疲れ	咽喉部に接觸。	並	(19)(24)	五分	臨時	二—三回
頭垢	頭部を洗ひたる後短光移動すべし。	並	(13)	五分	一日	一回
拔毛	頭髮によつて、導子が、頭皮に密着せざる故短かき火花を發す。若し餘り火花を發し過ぎ	稍強	(13)	五分	一日	二回

適應症	應用部及方法	導子番號	強弱	時間	應用回數
	て、刺戟強き時は、電流を弱くして移動接觸すべし。				
面皰	善良なる石鹸にて洗ひ、乾きたる手拭にてよく拭ひたる後應用すべし。移動接觸すべし。	(19)(26)	並	五分	一日 數週間
夏日班	組織が燒けて、肉眼にて白くなる迄長き火花を發す。	(17)	強	數秒	臨時
疣。魚の目	中度の火花を發して、其部を燒き、應用後油又はワセリンを塗り置くべし。	(17)	稍強	數秒	臨時
黑子。小痣	手足、腰等の冷ゆる部に應用し、後腹部脊骨の兩側を上より下へ移動接觸す。	(19)(26)(25)	並	五—一〇分	就眠前
冷症	導子を手にて握り全身應用をなし、後に、腹部、脊骨の兩側に移動應用す。	(19)(26)(25)	並	五—一〇分	就眠前
老衰	其部へ接觸應用すべし。應用前リスリンを塗	(19)(26)(25)	並	五—一〇分	就眠前
美顏術	顏にクリニームを塗り、移動接觸すべし。	(19)	並	五—一〇分	臨時
肩の凝り	頸、肩の部に接觸又は短かき火花を飛ばすべし、又F型にて感傳を併用すべし。	(19)	並	五—一〇分	臨時
頭痛	頂部に(13)の導子にて應用し又額、顳顬、肩、部に(19)を接觸して應用す。	(13)(19)	強	五分	臨時
心臟病	心臟部。胃部。脊骨部に接觸應用す。	(19)	並	五—一五分	一日
鼻加答兒	(19)導子を用ひて、鼻の兩側。頰。頸部に接觸應用し、又(1)導子を鼻孔に挿入し二三分間應用し、又(2)導子を應用す。	(19)(2)(1)	並又は弱	三—三〇分	臨時
咽喉加答兒	咽喉の外部に(19)(24)の導子を接觸し、又は(9)の導子を、口内より挿入應用す。	(19)(24)(9)	並	一〇—一五分	一日
喘息	(19)導子を用ひて、頸の後部に三分間、脊骨の上部に三分間、咽喉部及全胸部に三四分間	(19)	強	一〇分	發作前

症應適	應用部及方法	電流強弱	導子番號	時間	應用時	回數
	接觸應用すべし又はF型感傷併用。					
ジプテリヤ	(19)(24)導子を咽喉外部に接觸し、(11)を舌部にあて、口内部に應用す。	並	(24)(19)(11)	一〇—一五分	約一時間毎に	數回
百日咳	同上。	並	(24)(19)(11)	一〇—一五分	發作前	數回
氣管支加答兒流行性感冒	同上の方法及胸部、脊部にタオルを卷き、(19)導子を用ひて、皮膚が、赤引する迄短かき火花を飛はすべし。	並	(24)(19)(11)	五—一〇分	一日	一—二回
肺炎	胸部、脊部に布片を卷き、(19)又は(26)導子を用ひて、短かき火花を飛はし、移動すべし。	並	(19)(26)	五—一五分	一日	一—二回
肺結核	(19)又は26)導子を胸部、脊部にあて、徐々に弱き電流を通り移動、摩擦すべし。	弱	(19)(26)	五—一〇分	一日	一—二回
肋膜炎	口内を清潔にし(11)導子を接觸應用すべし。	弱	(11)	二—五分	一日	二回

症應適	應用部及方法	電流強弱	導子番號	時間	應用時	回數
口内炎	口内及齒坎を清潔にし、患部の形により(20)より(23)迄の導子を選び、壓定應用すべし。又(19)導子を用ひて、頰の上又は頸部より應用すべし。	稍強	(20)(21)(22)(23)(19)	三—五分	治す迄	數回
齒痛	腫脹せる部分に、接獨移動、又は弱く矢かき火花を飛はす。	並	(19)(26)	三—一〇分	一日	二—三回
耳下腺炎	口内を清潔にし、(19)又は(26)(24)導子にて、患側の頸部を外より接觸應用し、又は(9)の導子を以て、口内より扁桃腺に壓定應用す。	並	(9)(19)(24)(26)	五—一〇分	一日	二—三回
扇桃腺炎	胃部に(19)又は(26)導子にて五分間接觸し。次に導子を手にて握り、全身に應用す。	並	(19)(26)	一〇—一五分	數週間一日	一回
消化不良	(19)又は(26)導子にて上より下に撫で下す樣に腹部に接觸すべし、決して逆に撫で上ぐ可からず。	並	(19)(26)	五—一〇分	一日	一—二回
胃腸加答兒	腹部より腰部にかけて、布片を捲き、其上に					

適應症	應用部及方法	電流強弱	導子番號	時間	應用時	回數
腹痛	(19)又は(26)の導子を接觸すれば、短かき火花を發すれば痛みを鎭む。	並	(19)(26)	五—一〇分	臨時	一—三回
疝氣	同上。	並	(19)(26)	五—一〇分	一日	一—二回
便秘	(19)の導子を用ひて、左腹部に五分間、次に背部の腰より、骨盤部に五分間接觸應用し、尙ほ効なき時は、(5)又は(6)の導子に油又はリスリンを塗り直腸に挿入し稍や強く通電すべし	稍強	(19)(5)(6)	一〇—一五分	臨時	一回
痔疾	(5)又は(6)の導子に油をつけ淺く肛門に挿入すべし。	稍強	(5)(6)	五—一〇分	一日	一回
腹膜炎	腹部に輕く、布片を置き、仰臥して、(19)の導子、輕く移動すれば、短かき火花を發し、內部の熱を外部に誘導し、又浸出物の吸收を促ながす。仰臥して右の上腹部へ布片を置き(19)導子を接	弱	(19)	五—一五分	一日	一—二回

適應症	應用部及方法	電流強弱	導子番號	時間	應用時	回數
肝臟病	觸して、弱き火花にて、內部の熱を外部に誘導すること三—五分間。次に頸、脊骨の兩側に上より撫で下して五分間應用し、後導子を手に握りて、全身に五分間應用す。	並	(19)(25)	一〇—一五分	一日	一—二回
腎臟病	腰より少し上部にかけ、兩側に(19)又は(26)導子にて、稍や強く接觸應用し、後に脊骨の上部より撫で下す樣に接觸すべし。	強	(19)(26)	一〇—一五分	一日	一回
膀胱加答兒	下腹部に輕く接觸し、又はタオルを浸きて、短かき火花を飛ばすべし。	並	(19)	五—一〇分	一日	一—二回
白帶下渴	(14)又は(15)の導子に油を塗り、膣に挿入して應用す。挿入又は取り去る際は、電流を止むべし、又月經中は中止すべし。	並	(14)(15)	五分	一日	一回
淋病	(3)又は(4)の導子に油を塗り、尿道內に挿入したる後靜かに電流を通じ、又は(12)の導子を陰莖に被せ電流を通ずべし。	強	(3)(4)(12)	五分	一日	一—二回

適應症	應用部及方法	電流強弱	導子番號	時間	應用時	回數
下痢	(17)の導子を用ひて、長き火花を飛はして、燒灼すべし、後に油、ワセリンを塗り置く。	強	(17)	數秒	治する迄一日	一回
遺精	導子を手にて握り全身應用し、(19)導子にて脊骨、腰部に接觸應用す。	並	(19)	一〇—一五分	就眠前	一回
攝護腺炎	(7)導子を同部にあて、接觸應用すべし。	強	(7)	五分	一日	一回
陰萎	(12)導子にて陰莖を被ひ、後に(19)導子を會陰部にあて、共に強く應用すべし。	強	(12)(19)	五—一〇分	一日	一回
不感症	(19)子導を會陰部にあて、接觸、移動すべし。	強	(19)	五—一〇分	一日	一回
リウマチス筋炎風痛	(19)又は(26)導子にて、患部に接觸應用すべし。此の時、イヒチオール軟骨等を塗りて、用ふれは、藥品は筋肉中に侵入することを早し。F型感傳併用尙効あり。	強	(19)(26)	五—一〇分	一日	一—二回
神經痛	同上。	強	(19)(26)	五—一〇分	一日	一—二回
痲痺	患部に(19)又は26)導子を、接觸又は短かき火花を飛はして應用し、又(25)導子を脊骨の兩側に接觸す、F型感染併用尙効あり。	強	(19)(26)(25)	五—一〇分	一日	一—二回
痙攣	頸以下の痙攣には25)(19)の導子を以て頸の後部より腰部迄脊骨の兩側を上より下へ數回撫で下し、頸以上には其部に接觸應用すべし。	強	(19)(25)	五—一〇分	一日	一—二回
吃逆	頸の後骨と、脊骨の上部に(19)(25)導子を接觸す。	強	(19)(25)	五分	一日	一—二回
佝僂病骨軟化症	導子を手にて握り、全身應用す。	並	(19)	一〇—一五分	一日	一回
脚氣	(19)導子を心臟部にあて、五分間應用し。次に脚部に數分間、爪先より腿に向け移動應用し。又はF型の感傳を併用すべし。	稍強	(19)	一〇—一五分	一日	一—二回
腦脊髓病癲癇	(13)導子にて頭部全面、(19)導子に額、眉、顳顬部(25)にて頸部、脊骨部の全部に接觸、移動應用すべし。	並	(13)(19)(25)	五—一〇分	一日	一回
神經衰弱	同上の方法を行ひ、後導子を手にて握り、全	並	(13)(19)	五—一五分	一日	一—二回

適應症	應用部及方法	電流強弱	導子番號	時間	應用時	回數
ヒステリー	身應用をなすべし。又F型感傳併用。	並	(19)	五—一〇分	就眠前	一回
動脈硬化症	導子を握りて全身應用。	並	(19)	一〇—三〇分	就眠前	一回
肥胖病	同上。	並	(19)	一〇—三〇分	就眠前	一回
貧血	同上又は迅速移動摩擦す。	並	(19)	一〇—三〇分	就眠前	一回
腺病	同上又は幼兒なる時は間接應用。	並	(19)	五—一五分	就眠前	一回
甲狀腺腫瘰癧	(19)又は(26)の導子を患部にあて、耐へ得る限り、強き電流を通ずべし。	強	(19)(26)	五分	一日	數回
糖尿病	導子を握りて全身應用又は(19)導子にて腹部に接觸す。	並	(19)	五—一〇分	一日	一—三回
中毒	頭部の全面及全身應用。	稍強	(13)(19)	一〇—一五分	臨時	數回
眼病	(10)導子を以て喉の上より接觸應用す。	強	(10)	五—一〇分	一日	一—三回

耳痛	(16)導子に油を付け、挿入應用。	弱	(46)	二—三分	一時間毎	數回
赤鼻	(19)又は(26)導子にて、短かき火花を飛ばし、一時に急激に行はず、數秒づゝ行ひては休み、數回反覆す。	並	(19)(26)	數秒づゝ	一日	一回
禿頭病	(26)導子にて短かき火花を發せしめ、又(13)導子にて、頭部全部に應用す。	並	(26)(13)	五分	一日	二—三回
白髮豫防	同上。	並	(26)(13)	五分	一日	二—三回
腫瘍	(19)又は(2)導子を接觸す。	並	(19)(29)	五—一〇分	一日	二回
發疹	同上又はガーゼにて覆ひて短かき火花を發す	並	(19)(26)	五—一〇分	一日	二回
タムシ	短かき火花を飛ばす。	並	(19)(26)	五分	一日	一回
乳の凝り	(19)又は(26)導子にて乳房全部に接觸應用。	並	(19)(26)	五—一〇分	一日	一—二回
皮膚病	堪へ得る丈け屢々應用す。	並	(19)(26)	五—一〇分	一日	數回

適應症	應用部及方法	電流強弱	導子番號	時間	應用時	回數
打撲傷 挫傷	傷口無き故に、新陳代謝を促し、病的產物を吸收せしむる樣、數回、少時間づゝ應用す。	強	(19) (26)	五分	臨時	數回
切創 擦傷	創口より不潔物又は化膿菌侵入せざる樣消毒する爲め、創面に短かき文花を數回飛ばす可し。此時放電により空中酸素より化成する、オゾンは強き消毒力あり、且組織には無害なる故、石炭酸水等の消毒に勝ること數等なり。	並	(19)	數秒	臨時	數回

御注文の方法

一、御注文の節は御希望の品名、御明示被下度候はゞ代金引替小包便にて御送附可申上候。

尙前以て御送金の方には荷造料は當店負擔可仕候。名宛は東京府上澁谷町一一、河喜多研究所特賣店。振替口座は東京六一七七一番に有之候。

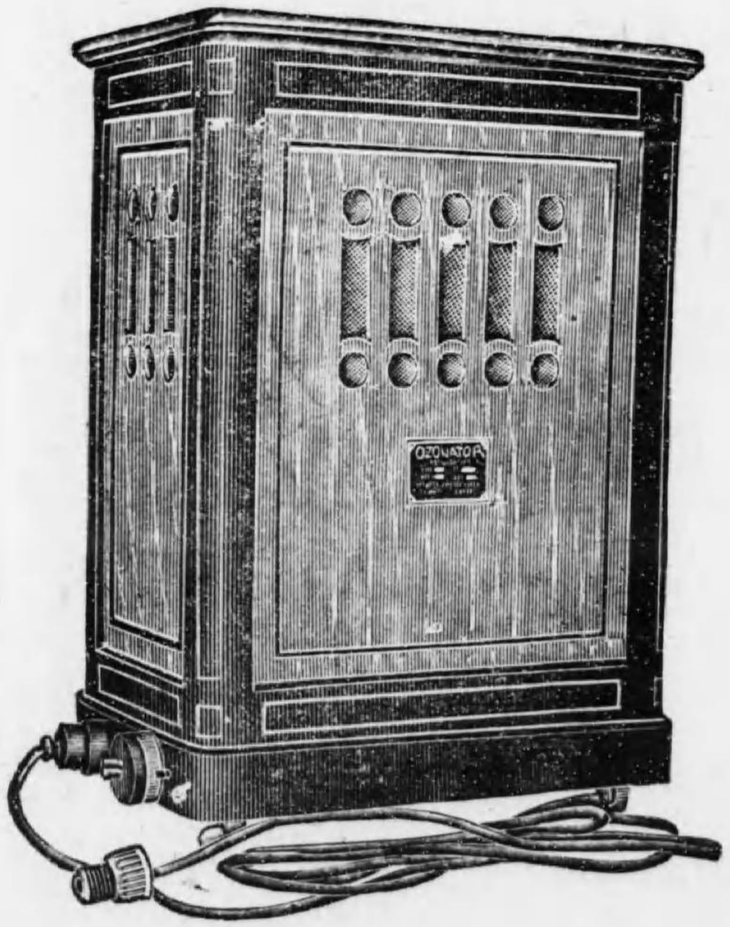
第十號

メルテアヂンゲトンレ

定價七百五拾圓

大型

オゾン發生機



定價 (中型) 金參百圓
(大型) 金參百八拾圓

一般電磁氣裝置に付、設計御下命次第、早速見積り可仕候、尚ほ今般左記を特約販賣店と相定め候に付、本店同様御引立の程願上候

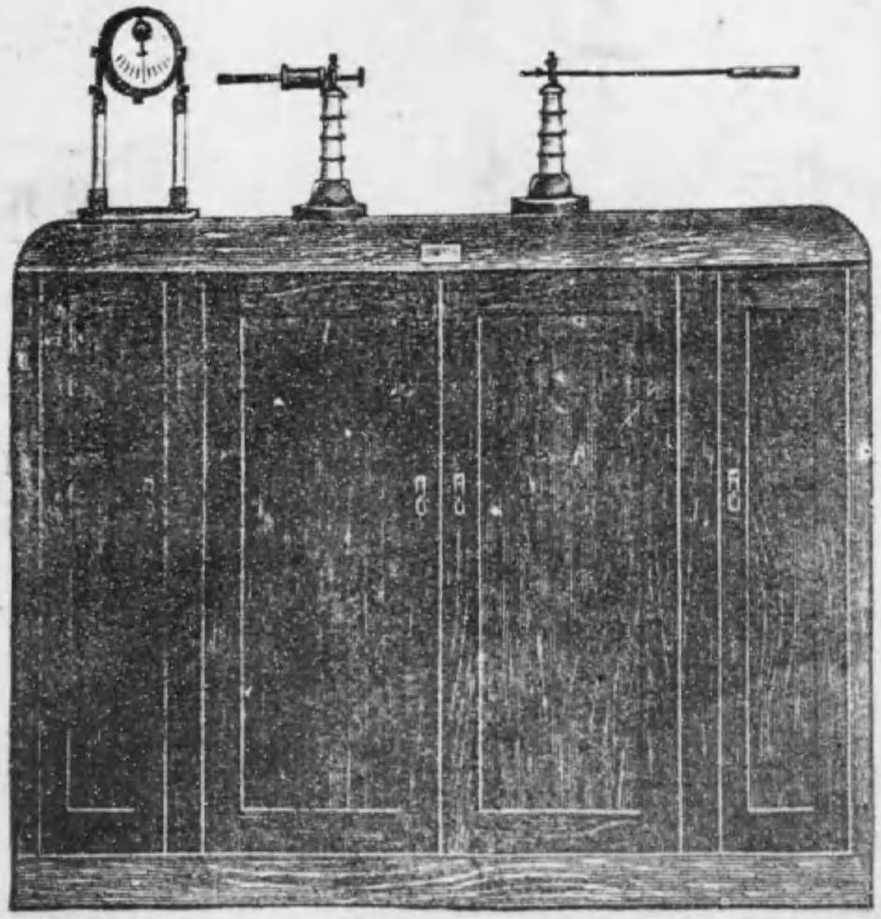
大正十一年十一月二十二日印刷
大正十一年十一月二十五日發行

不許複製

著作兼發行人　東京市牛込區市ヶ谷谷町百一番地　米田喜一郎
印刷者　東京市京橋區木挽町一丁目十四番地　工藤正雄
印刷所　東京市京橋區木挽町一丁目十四番地　中條印刷所
發行所　東京府上澁谷町一一　河喜多研究所特賣店
振替口座東京六壹七七壹番

終

種各一ミルテアデンゲトンレ



上以圓千參價定

（本裝置ハ非常强力X線ニシテ
船來品以上ノ能率ヲ有ス）